

# けいはんなの最先端 ～さらなるイノベーション拠点をめざして～

サントリーホールディングス(株)の研究開発拠点、京都大学の附属農場などの大型施設の立地や、オンリーワンの技術を持つ中堅・中小企業の立地が続々と決まり、企業や研究機関の集積が進む関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市、以下、けいはんな)。今年3月にはスマートシティに関する大規模な国際シンポジウムが開催されるなど、近年ますます注目を集めている。ここでは、けいはんなの最新の動きと当会の取り組みを紹介する。

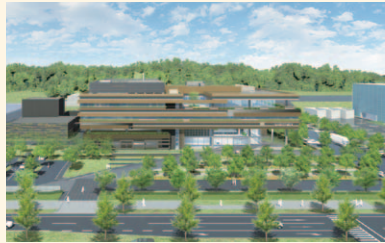
## 好調な企業立地

京都、大阪、奈良の3府県にまたがるけいはんなには、2014年3月末現在、121の施設が立地しており、新たな企業、研究機関の立地も順調に進んでいる。

特に、バイオ、ヘルスケア関連の企業や大学研究機関等の進出が目立つ。京都大学は、大阪府高槻市にある附属農場を2016年4月までに木津地区へ移転する予定であり、研究・技術開発拠点を1カ所に集約する。大幸薬品(株)は、大阪府吹田市にある工場と研究施設を精華・西木津地区に移転・拡充し、海外展開に向けて生産能力を増強する。サント

リーホールディングス(株)は、グループのさらなる飛躍的成長に向け、同地区に新たな研究開発拠点「サントリーワールドリサーチセンター」を建設する。現在3カ所に分散している拠点を移転・集約し、けいはんなの大学や異業種企業との交流による新たなイノベーションの創出をはかる。

オンリーワンの優れた技術を持つ中堅・中小企業の進出も目立つ。ス



サントリーワールドリサーチセンター  
完成予想図

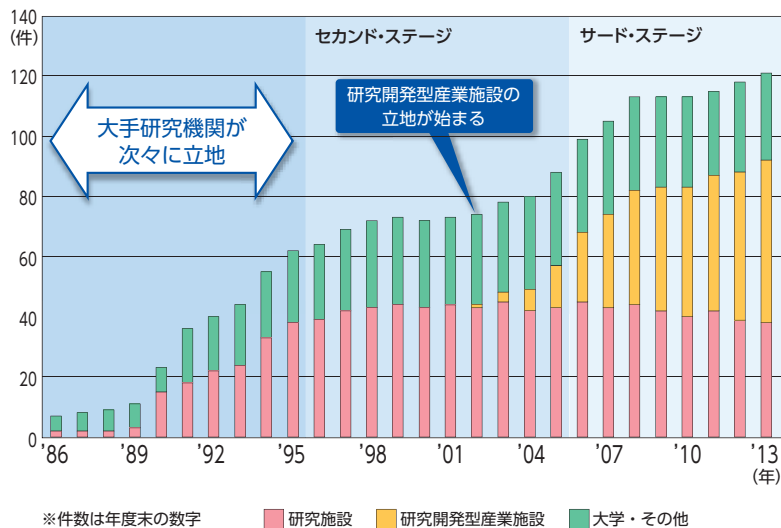
スマートフォンなどの基盤に用いられる電磁波シールドフィルムの製造で世界トップクラスのシェアを誇るタツタ電線(株)は、昨年5月、木津地区に研究開発拠点の「タツタテクニカルセンター」を開設した。また、世界随一のトランプカードの偽造防止対策技術を持つエンゼルプレイングカード(株)は、カジノで使用されるカードなどの増産に向け、精華・西木津地区に工場を建設し、今年4月より稼働させている。

好調な立地の背景には、2002年に行われた研究開発型産業施設の立地用途の規制緩和により産業集積が進んだことや、内陸部で災害リスクが低いことなどがあげられる。また、けいはんなは全国有数の人口増加地域であり、商業施設などが増え、従業員にとって住みやすい街となっていることも立地を後押ししている。けいはんなへの進出を決めた企業の中には、すでに立地している企業、研究機関との連携・協力を期待する声も多く、今後、さらなる産業集積が期待される。

## 関係連の取り組み

当会では、昨年4月に、サード・ステージ・プランの目標年である2015年をターゲットとし、関係機関が協力して取り組むべき事項を「け

〈表 立地施設数の推移〉



いはんな学研都市アクションプラン2015]として取りまとめた。

アクションプランでは、運営体制の強化や立地機関の連携・交流の仕組みづくりなどを施策として掲げており、(公財)関西文化学術研究都市推進機構、(株)けいはんな、京都府などとともに、着手できる施策から順次実行に移している。

### ■けいはんなイノベーション交流会の立ち上げ

前述のとおり、けいはんなにはさまざまな企業、大学、研究機関などが集積している。多種多様な立地機関が集積するメリットを生かすために、今年3月に「けいはんなイノベーション交流会」を立ち上げた。本交流会は、けいはんな地域の研究者らによる幅広い意見交換や情報共有を通じて、中長期的にはけいはんながイノベーションを生み出す拠点となることをめざしている。今後も域内の立地機関などの協力も得ながら継続的に開催する。



第2回けいはんなイノベーション交流会におけるけいはんな記念公園の見学の様子

### ■うめきたでけいはんなPRイベントを開催

けいはんなの課題の一つである情報発信に向けた取り組みも実施している。

昨年度は、(公財)関西文化学術研究都市推進機構などと協力して、うめきたで相次いでイベントを開催し、けいはんなの技術や取り組み

を発信した。

11月2日～5日にかけては、「けいはんな”プチ体感フェア2013 in ナレッジキャピタル」を開催。奈良先端科学技術大学院大学や国立国会図書館関西館などの主要立地機関、けいはんなプラザラボ棟に入居するユニークな中小・ベンチャー企業の技術や取り組みを一般来場者に発信し体感してもらうことで、けいはんなの認知度向上に貢献した。

また、11月7日～9日には、「けいはんな情報通信フェア2013@うめきた・ナレッジキャピタル」を開催。けいはんな会場の講演会の様子を

うめきた会場で同時中継したほか、(独)情報通信研究機構が開発した多視点裸眼立体映像などを活用した最先端の情報通信技術を紹介し、けいはんなの技術を幅広く発信した。うめきたでのPRイベントは、今年度も引き続き実施する予定である。

今後は、サード・ステージ・プランの目標年が迫るなかで、次なるステージに進むために、けいはんなのあり方を検討する会議体の設置に向けた関係者間協議を進めていく。

(産業部 半田佑紀)

## ～「エコ」をけいはんなの文化に!～

けいはんなは、経済産業省より次世代エネルギー・社会システム実証事業の地域に選定されるなど、エコシティとしても注目されている。けいはんなの「エコ」の取り組みはさまざまなところで広がりを見せており、ここではそのうち2つの事例を紹介する。

### ●京都スマートシティエキスポ2014・国際シンポジウム

今年の3月26日～27日、京都府やスペイン・バルセロナ市等が、スマートシティに係る国際的なビジネス交流、技術交流の促進を目的とした国際シンポジウムを、京都市とけいはんなで開催した。

本シンポジウムは、バルセロナ市で毎年開かれている「スマートシティエキスポ世界会議」をアジアで初めて開催した。「日本スペイン交流400周年事業」に位置づけ、今後成長が期待されるスマートシティ関連の企業や研究者を国内外から招聘し、2日間で海外28カ国から約1,800名が参加した。

### ●(株)京都銀行の環境配慮型店舗

(株)京都銀行は、けいはんなに立地する大和ハウス工業(株)等の協力のもと、最先端の技術を結集し、東長岡支店を環境配慮型店舗として新たに建築した。

今年3月にオープンした同支店では、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギーを使って、空調・照明・コンセント電源などの電力エネルギーを自給自足し、「CO<sub>2</sub>排出量ゼロ」を実現している。



京都スマートシティエキスポ2014



(株)京都銀行東長岡支店